

入学試験問題



地理歴史

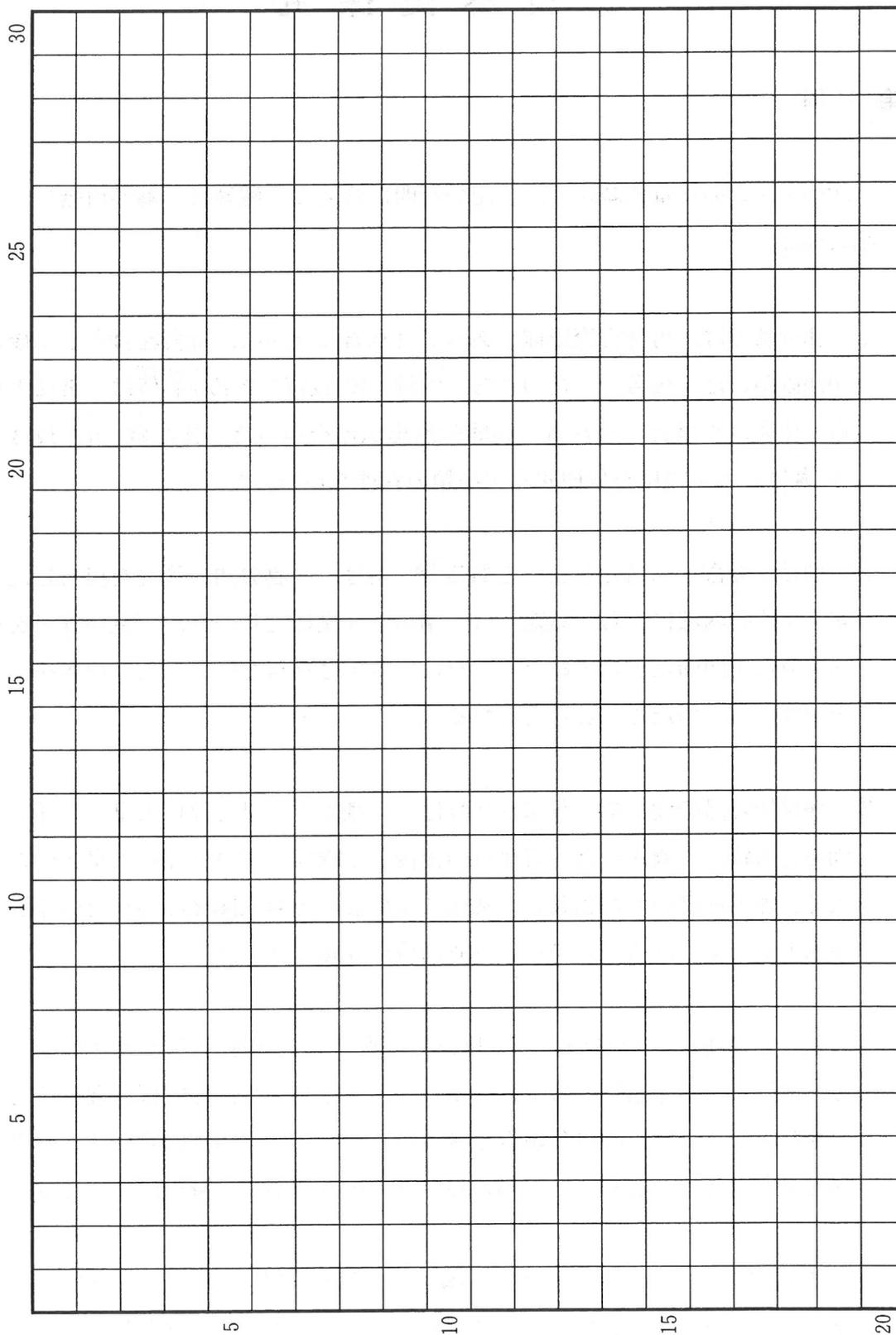
(配点 120 点)

令和 8 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 49 ページあります(本文は日本史探究 4 問 4～15 ページ, 世界史探究 3 問 16～31 ページ, 地理探究 3 問 32～49 ページ)。落丁, 乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史探究, 世界史探究, 地理探究のうちから, あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には, 必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は, 1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に, 受験番号(表面 2 箇所, 裏面 1 箇所), 科類, 氏名を記入しなさい。指定欄以外に, これらを記入してはいけません。記入がある場合は, 解答が無効となることがあります。
- 7 解答は, 必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙の解答欄に, 関係のない文字, 記号, 符号などを記入してはいけません。また, 解答用紙の欄外の余白には, 何も書いてはいけません。記入がある場合は, 解答が無効となることがあります。
- 9 解答用紙表面上方に記載された科目名のうち, その用紙で解答するものにチェックしなさい。
- 10 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち, その用紙で解答する科目の分のみ 1 箇所をミシン目に沿って正しく切り取りなさい。
- 11 この問題冊子の余白は, 草稿用に使用してもよいが, どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は, 持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後, 問題冊子は持ち帰りなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



日本史探究

第 1 問

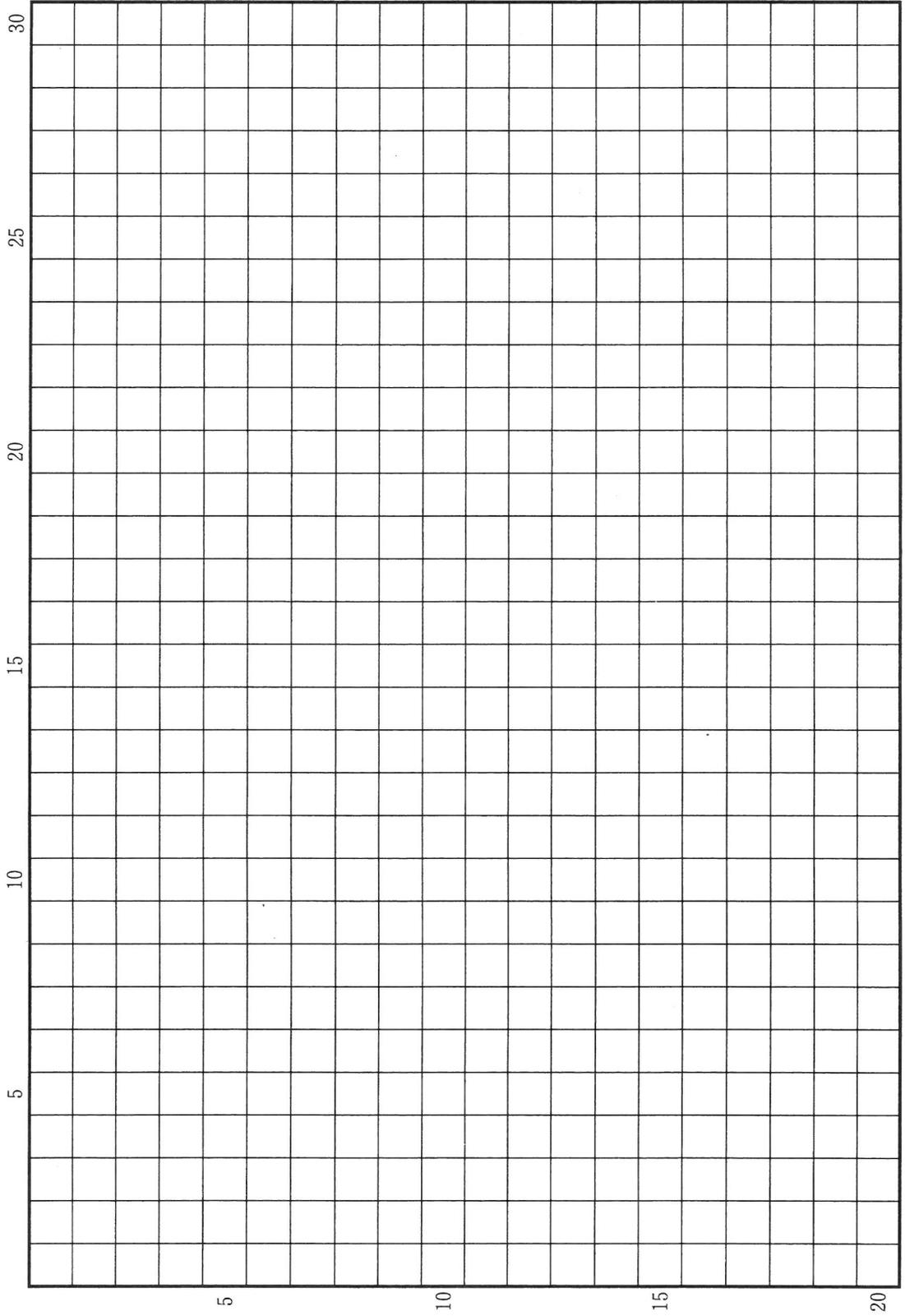
次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問に答えよ。解答は、解答用紙(イ)の欄に記入せよ。

- (1) 律令制では、男性官僚組織である二官八省のほかに、女官組織として後宮十二司が置かれた。後宮十二司のうち、内侍司ないしのつかさの長官である尚侍ないしのかみは、常に天皇の身近に仕え、天皇と二官八省との間の意思伝達を担った。また蔵司くらのつかさの長官である尚蔵くらのかみは、天皇の位を象徴する宝物類の管理を担当した。
- (2) 同じく後宮十二司のひとつである闈司みかどのつかさは、内裏の門の管理を担当した。男性官人が門の内部に立ち入る際には、闈司が天皇にとりつぎ、天皇の許可を得てから、彼らを門内に引き入れた。これは、本来は女官だけが、天皇の居所に入ることを許されていたためと考えられる。
- (3) 藤原仲麻呂の妻である藤原袁比良おひらは、孝謙太上天皇と淳仁天皇の信任を得て、尚侍と尚蔵とを兼任した。袁比良の没後、孝謙太上天皇と淳仁天皇との対立が深まると恵美押勝の乱が勃発し、乱後には仲麻呂と対立関係にあった藤原豊成とよなりや藤原永手ながてが大臣となるが、彼らの妻も尚侍や尚蔵であった。
- (4) 病により譲位した平城太上天皇は、回復すると嵯峨天皇と対立するようになり、尚侍である藤原薬子の助けを得つつ、ふたたび政治の実権を握ろうとした。対する嵯峨天皇は、藤原冬嗣らを蔵人頭に任じて、宝物類の管理や円滑な命令伝達を担当させるとともに、一部の男性官人をみずからの身近に仕えさせた。
- (5) 10世紀末になると、有力貴族の幼い娘が尚侍に任じられるようになった。彼女たちは、華やかな装いで祭礼に参加するなどしたが、女官としての実質的な職務はほとんどなく、成長すると皇后や皇太子妃となった。

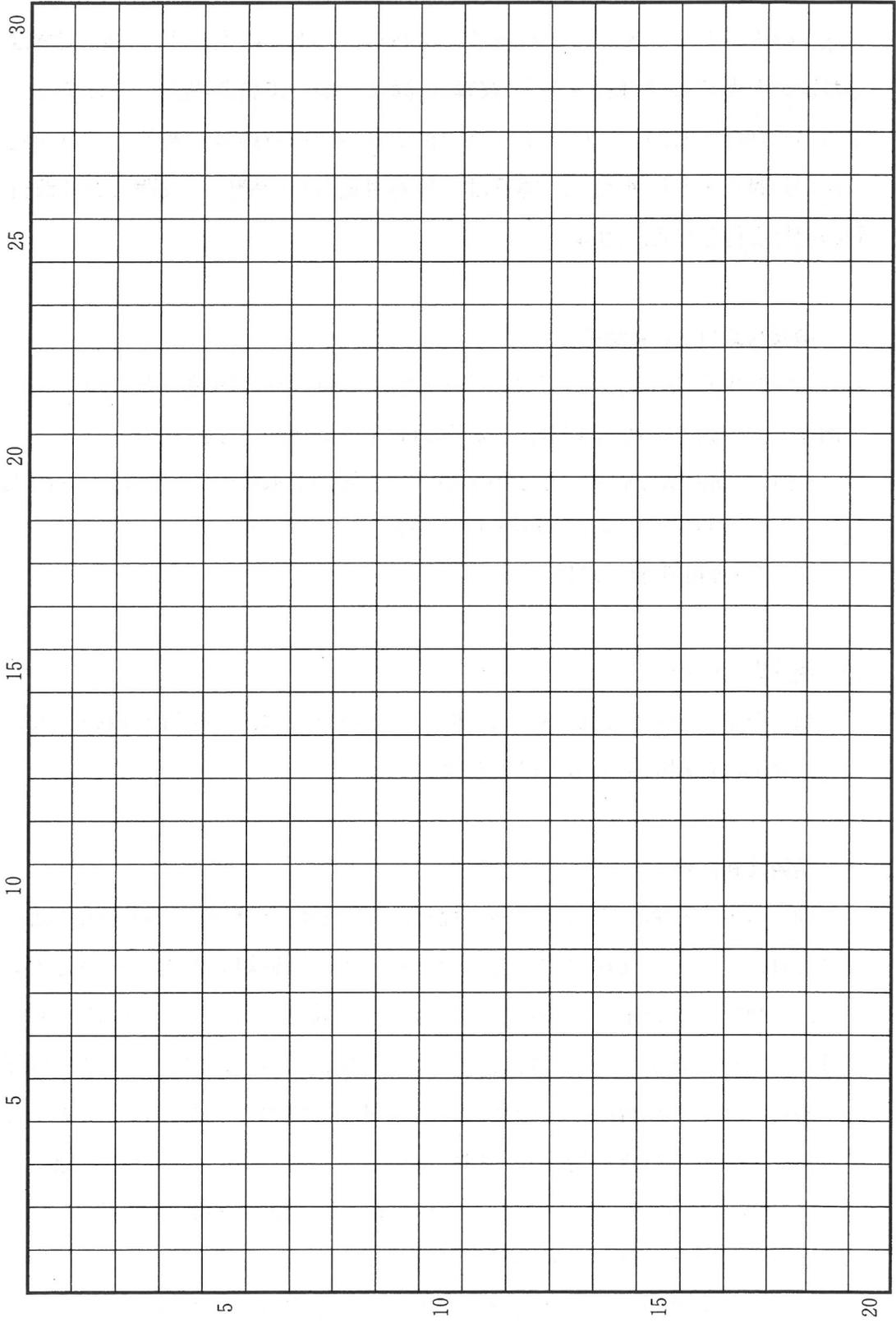
設 問

尚侍をはじめとする女官について、律令制下での職務や政治権力との関係はどのようなものであったか。また、それは9世紀前半にどのように変化したか。5行以内で述べよ。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 2 問

法は時代によって大きく変わることがある。たとえば次の(1)~(3)の文章は、それぞれ別の主人をもつ男女の下人(奴婢)の間に子が生まれた場合、その子をどちらの主人の所有とするかについて定めた中世法(いずれも意識)である。これを読んで、下記の設問A・Bに答えよ。解答は、解答用紙(口)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

(1) 御成敗式目 41 条後半

奴婢が生んだ子については、法意(注1)に照らすと問題があるが、同じ御時の例(注2)に任せて男子は父の、女子は母の主人のものとせよ。

(注1) 律令法の規定。養老令の捕亡令 14 条には「奴婢の子は男女によらず母方の主人のものとせよ」と規定されている。

(注2) 源頼朝時代の判例。

(2) 塵芥集 143 条

別々の主人をもつ男女の下人の間に生まれた子は、男子は男親の主人のものとし、女子は女親の主人のものとせよ。

(3) 結城氏新法度 15 条

別々の主人をもつ下人が夫婦になり、子を儲^{もつ}けた場合、昔から伝え聞^{きこ}るところによれば、女子は女親の主人のものとし、男子は男親の主人のものとするというが、(中略)一方の主人が養育して十歳や十五歳まで育てあげたのに、何の恩恵も施していない方が「その子は自分のものだ」などと言うのは、いかにも無理な主張である。女子は女親の主人のものとし、男子は男親の主人のものとするというのなら、子が生まれた当初から、届け出をして、まちがいなく恩恵を施している場合にのみ、そうすべきである。そうでなくては認めるわけにはいくまい。ただし、主人の屋敷以外で子を儲けた場合には、古法のごとく、何人子が生まれようとも男子は男親の、女子は女親の主人のものとするべきである。

設 問

A 御成敗式目はどのような方針で制定されたか。(1)の内容をふまえて、1行以内で述べよ。

B 御成敗式目と分国法の関係について、(2)・(3)の内容をふまえながら、4行以内で説明せよ。

第 3 問

次の(1)~(3)の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えよ。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

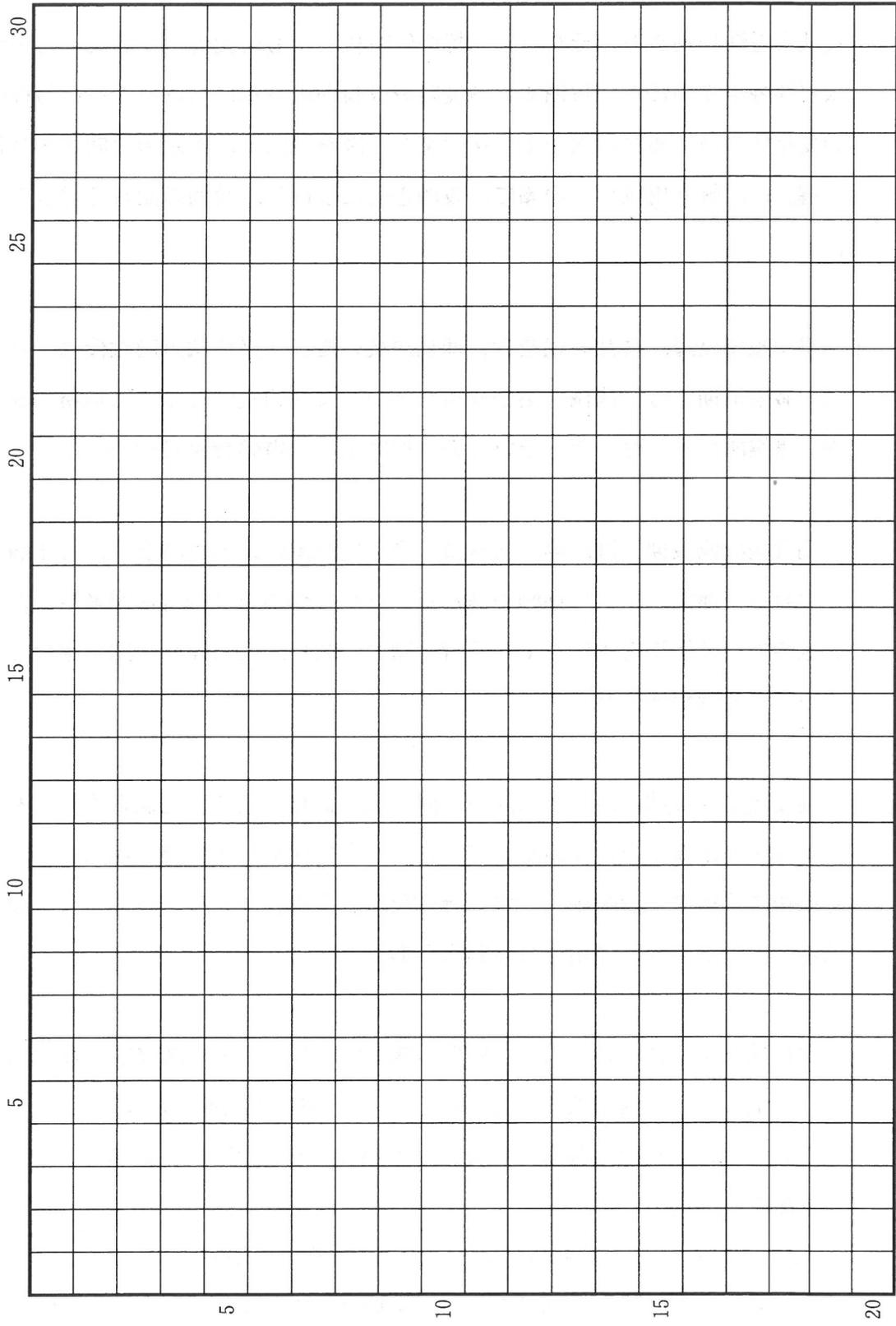
- (1) 信濃国伊那郡飯田の西、木曾や美濃との境に位置する山間に、清内路という幕府領の村があった。
- (2) この村を支配する代官は、1641年の史料で「この村に石高はないので、以前から郷帳にも載せていない。近年は住人が多くなったため、御樽木(屋根用材)1000丁ずつを年貢として納めさせている。この村の百姓は木師(杣・きこり)であるので、樽木年貢以外に御用木を出すよう命じられた時にも、たくさんの木を出す村である」と説明している。
- (3) この村では、享保年間までに、榎・檜といった樽木の材料となる木が伐り尽くされ、以後、樽木年貢は代金納とされた。1761年の史料では「男は木曾・飛騨・三河・遠江・甲斐などの山へ杣・日雇に出かけて賃金を稼いでいる」と述べている。また、米など食糧は飯田で買って、村内ではタバコの生産や炭焼き、女性や子どもによる木櫛の製造などが盛んになった。

設 問

A 石高をつけられた近世の村の通例とは異なって、清内路村に石高がなかったのはなぜだと考えられるか。2行以内で述べよ。

B 18世紀の清内路村は、米を生産する農村と比較して、経済面でどのような特徴をもったか。3行以内で述べよ。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



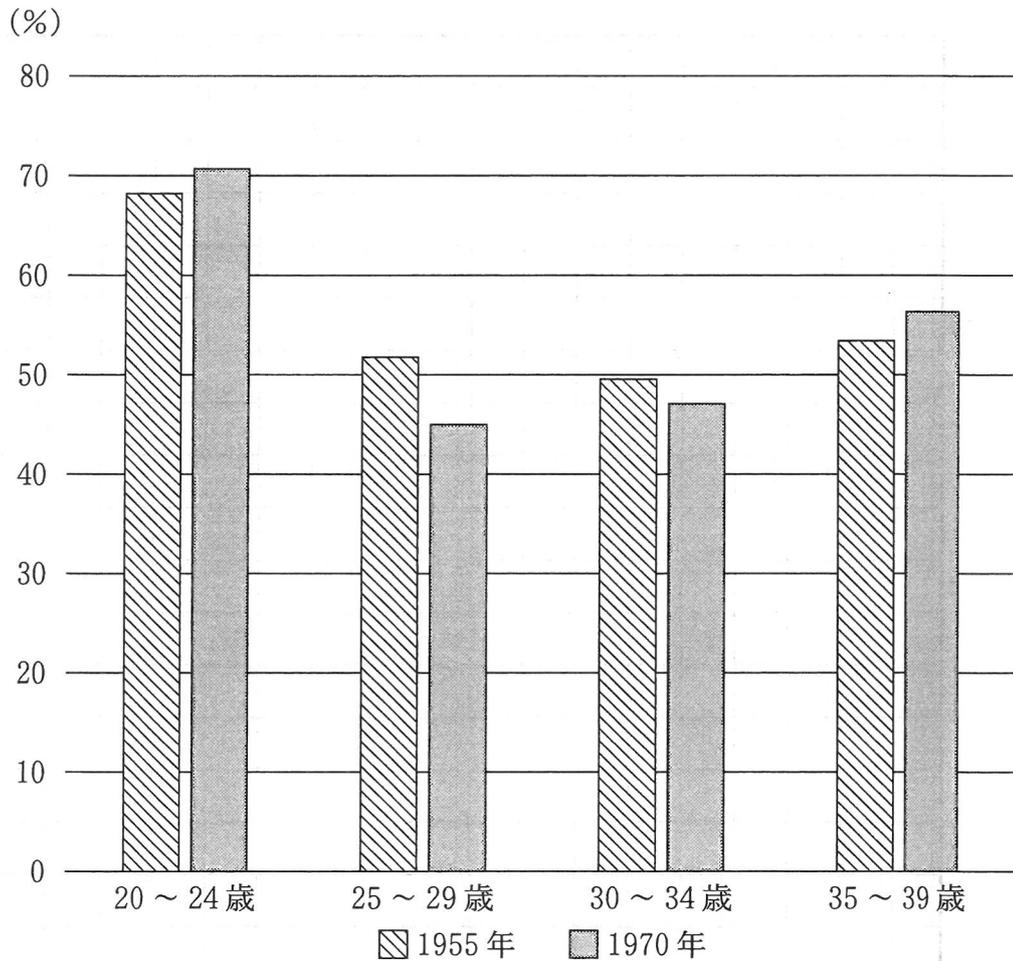
第 4 問

女性と男性の働き方のそれぞれの特徴は時代とともに変化してきた。日中戦争から太平洋戦争にかけての時期や、高度経済成長期の日本における女性と男性の働き方の変化について述べた次の(1)~(4)の文章と図を読んで、下記の設問A・Bに答えよ。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

- (1) 日中戦争以降、女性の就業者の増加が続いた。太平洋戦争開戦後は、さらに増え、戦争末期には、機械工業や鉄道などで、女性の就労なしには業務が成り立たない事業所が多くなった。それらの女性は主に未婚の若年者であった。
- (2) 高度経済成長期には、第二次産業・第三次産業の比重が高まり、若年層を中心に農村から都市への人口移動が進んだ。また、農業を含む自営業者や、自営業者の家族でその仕事を手伝っている者の割合が減り、官公庁や民間企業などに雇用されている者が増えた。
- (3) 高度経済成長期には、官公庁や民間企業の給与制度で、配偶者や子どもを扶養する者への家族手当の支給が拡充された。官公庁や民間企業に雇われている者が退職後に受給する老齢年金では、無職ないし少額の収入しか得ていない配偶者を扶養してきた場合に加給される制度があった。
- (4) 図に見るように、1955年と1970年を比較すると、年齢階層別の女性の労働力率(注)は、25~34歳で低下していた。なお、男性の労働力率は1955年、1970年において、いずれの年齢層でも女性より高く、特に25~54歳では、95パーセントを超えていた。

(注) 就業者と完全失業者の合計が人口に占める割合を指す。就業者には、雇用されている者のほか、自営業者および家族でその仕事を手伝っている者を含み、完全失業者には仕事を探していない者を含まない。

図 20～30 歳代の女性の労働力率

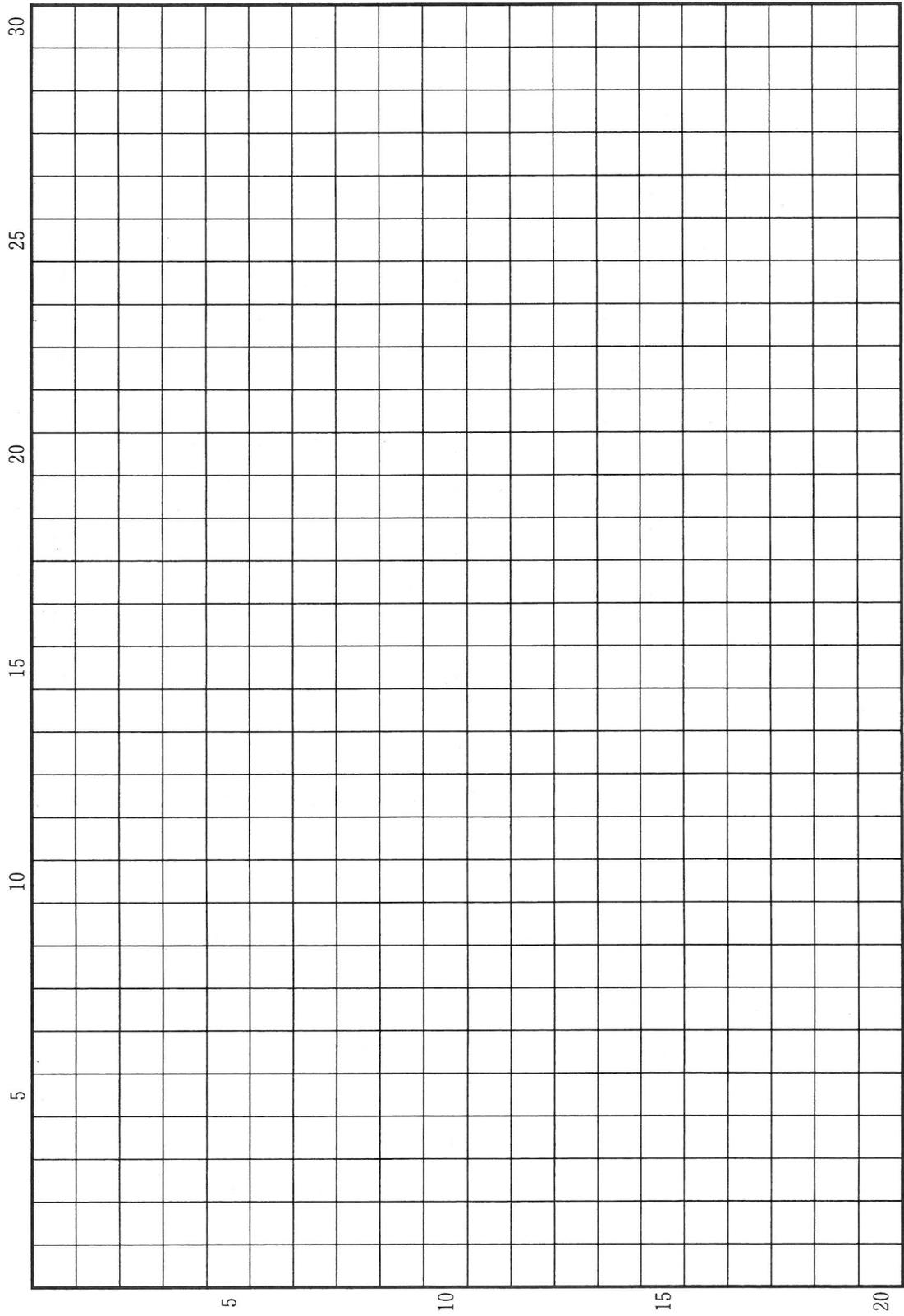


(東洋経済新報社編『国勢調査集大成 人口統計総覧』)

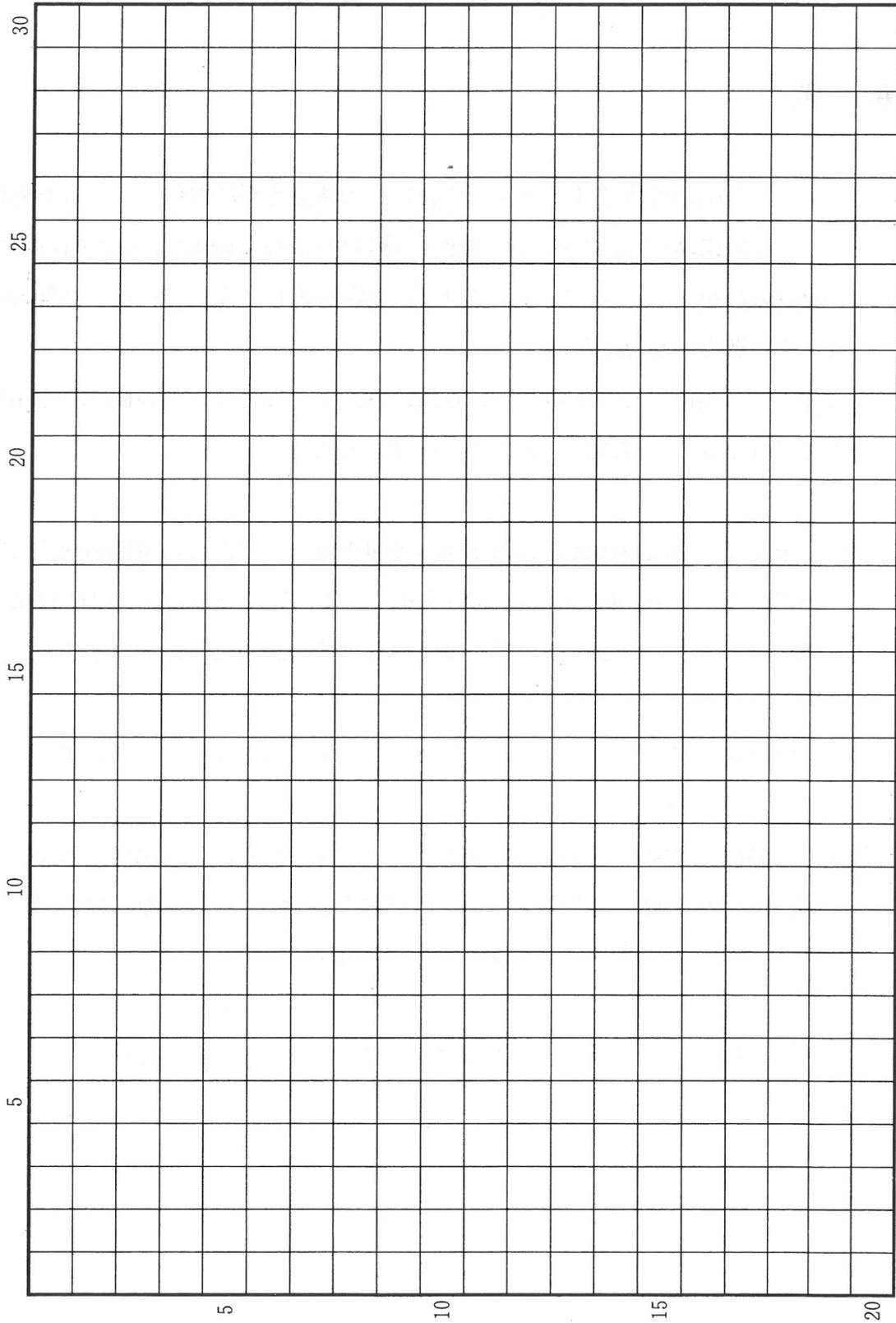
設 問

- A 日中戦争から太平洋戦争にかけての時期には、多様な職場で働く女性が増加していたが、戦争終結後その動きは続かなかった。戦中と戦後におけるそうした変化はなぜ起こったか。3行以内で説明せよ。
- B 高度経済成長期を通じて、女性の働き方にどのような変化があったか。変化をもたらした背景を含めて、3行以内で述べよ。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



世界史探究

第 1 問

モンゴル帝国の時代にユーラシアにおいて広域交流が活性化し、これを先駆けとして、15世紀末からは「世界の一体化」と呼ばれる地球規模の交流が開始された。この動きのなかで、インドではイスラーム教が浸透し、またヨーロッパ勢力が到来してアジア進出の起点とした。

このことに関連する以下の2つの設問に答えよ。解答は、解答欄(イ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)(2)の番号を付して記せ。

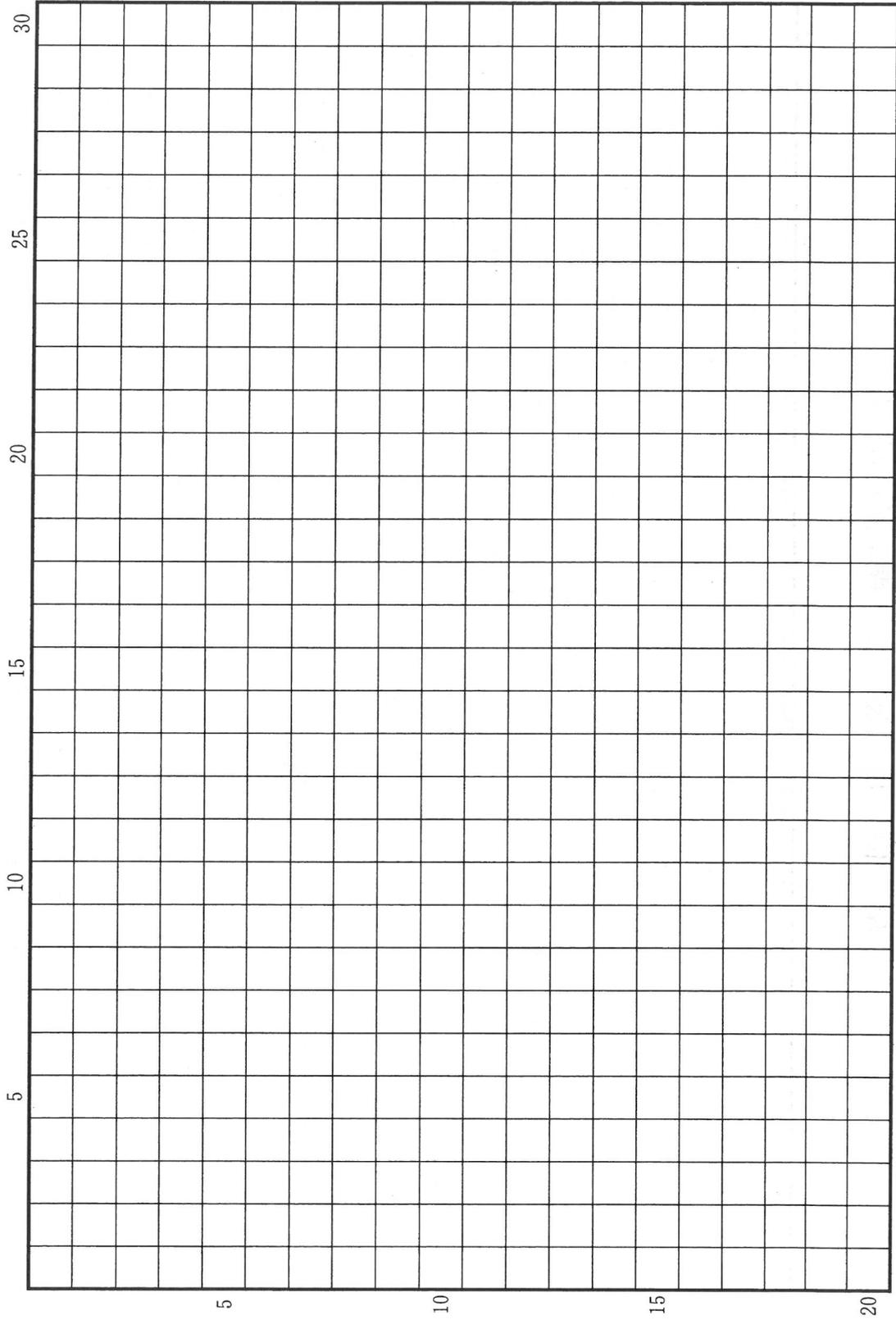
問(1) モンゴル帝国解体後の広域交流の展開を踏まえてムガル帝国の成立に触れた上で、ムガル帝国の宗教政策や文化について、10行以内で記述せよ。その際、以下の4つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

アウラングゼーブ タージ=マハル ティムール ペルシア語

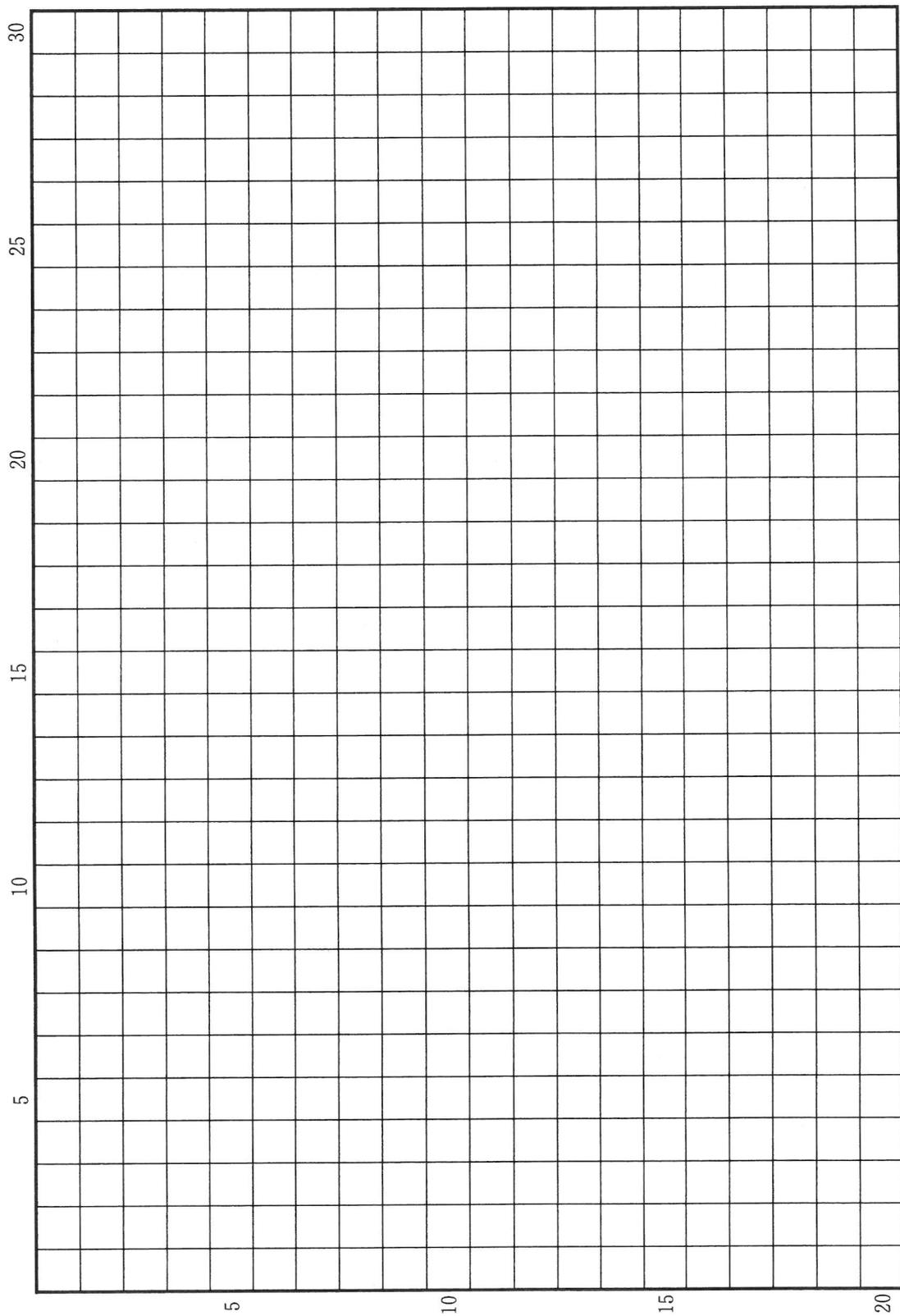
問(2) 「世界の一体化」の進展を踏まえて、15世紀末から17世紀中頃までのポルトガルのアジア進出について、10行以内で記述せよ。その際、以下の4つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

ザビエル トルデシリャス条約 マカオ マラッカ王国

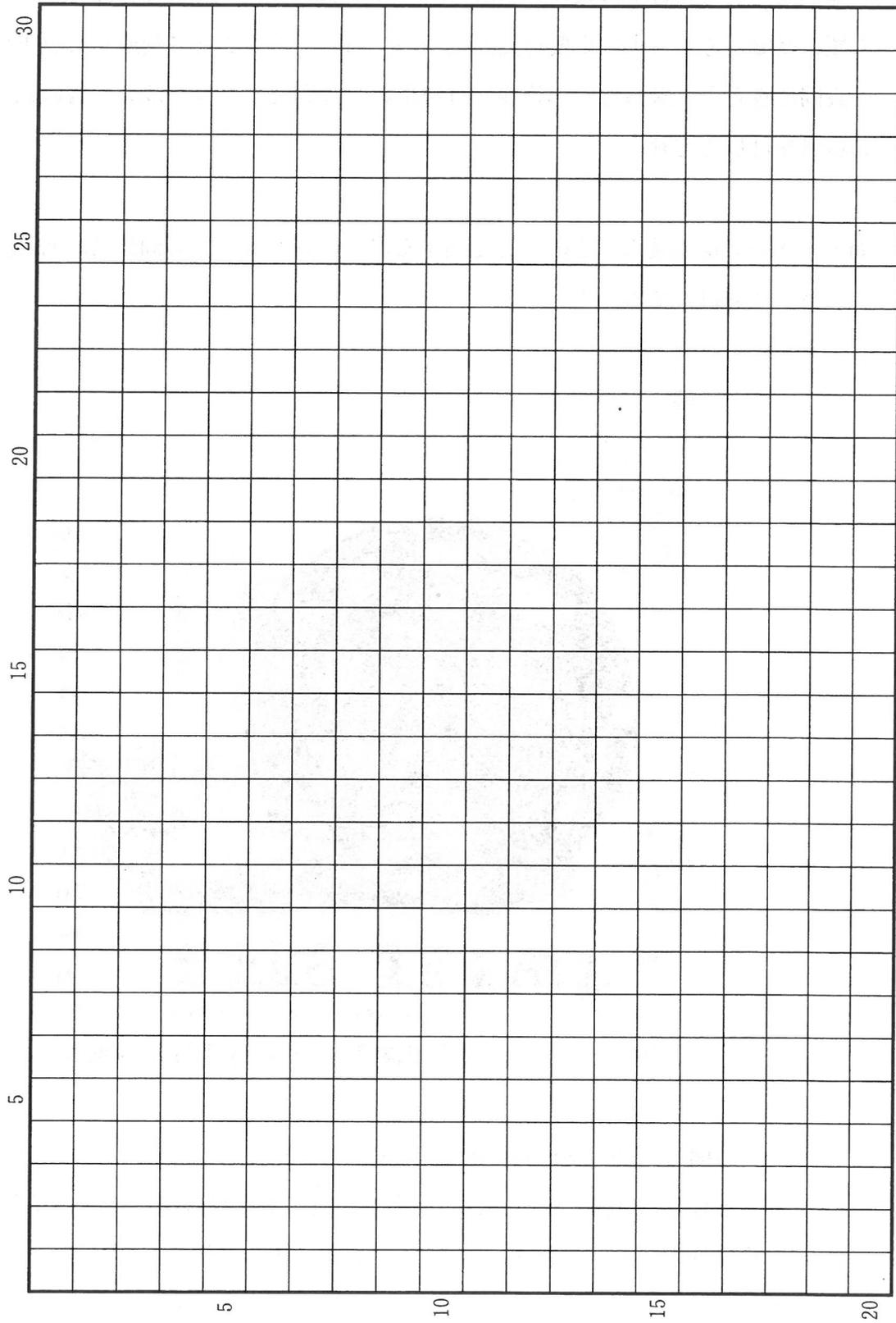
草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 2 問

地球環境や天然資源は人類の経済活動や社会制度の変化と密接に関係しており、人類の歴史を考える上で重要な要素の一つである。このことに関連する以下の3つの設問に答えよ。解答は、解答欄(□)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

問(1) 次の文章を読み、このことに関する以下の(a)・(b)・(c)の問いに、冒頭に(a)・(b)・(c)を付して答えよ。

図



出典：ディジョン市立図書館 手稿本番号 170,59 葉表

- A：この図は、12世紀初め頃に、現在のフランスのブルゴーニュ地方にある、とある修道院で作成された手書きの冊子本に見られる装飾の写真です。
- B：描かれているのは修道士でしょうか？ 彼らは何をしているのでしょうか？

A：良い質問ですね。考えてみましょう。この描写からは、この修道院を中心に形成された修道会における、冊子本作成当時の修道士たちのあるべき姿の一つを読み取ることができるのです。

B：彼らは植物の上に立っているように見えます。左の人は斧を持っていますね。キリスト教とは関係がなさそうですが…。

A：そうですね。しかしこうした活動も、彼らの修道生活にとっては大きな意味を持ったのです。

(a) この描写に見られる修道士たちの活動を、話題になっている修道会の名称を挙げながら、2行以内で記せ。

(b) (a)で扱った修道士たちの活動の背景となった当時のヨーロッパの気候傾向を述べた上で、その傾向に変化が生じた時期と、その変化がヨーロッパにもたらした影響を、3行以内で記せ。

(c) この描写を含む冊子本は、教皇グレゴリウス1世の著作を収録している。この教皇の事績を説明した文として最も適当なものを、次のア～エのうちから1つ選び、その記号を記せ。

ア ゲルマン諸族へのキリスト教布教を進めた。

イ イコンの利用をめぐり、ビザンツ皇帝レオン3世と対立した。

ウ フランク王カールに皇帝の冠を与えた。

エ 聖職叙任の問題などをめぐり、ハインリヒ4世と対立した。

問(2) 自然環境は人間の移動を条件づけてきた。それを知る手がかりを与えてくれる重要な史料の一つとして、旅行記が挙げられる。次の資料は、14世紀に世界の各地を旅し、旅行記を残したことで知られるモロッコ出身のウラマーが、旅の途中、海路でアラビア半島南東部のザファーリを訪れた時の記録である。このことに関する以下の(a)・(b)・(c)の問いに、冒頭に(a)・(b)・(c)を付して答えよ。

資料

ココヤシの実は、人間の頭にその形が似ている。つまり、その実には二つの眼と一つの口が付いており、(中略)その表面は毛髪に似た繊維に覆われている。ザファーリの人たちは、その繊維で縄紐を作って、鉄釘の代わりにそれを使って船板を縫い合わせる。また、その繊維から船舶用の太綱を作る。

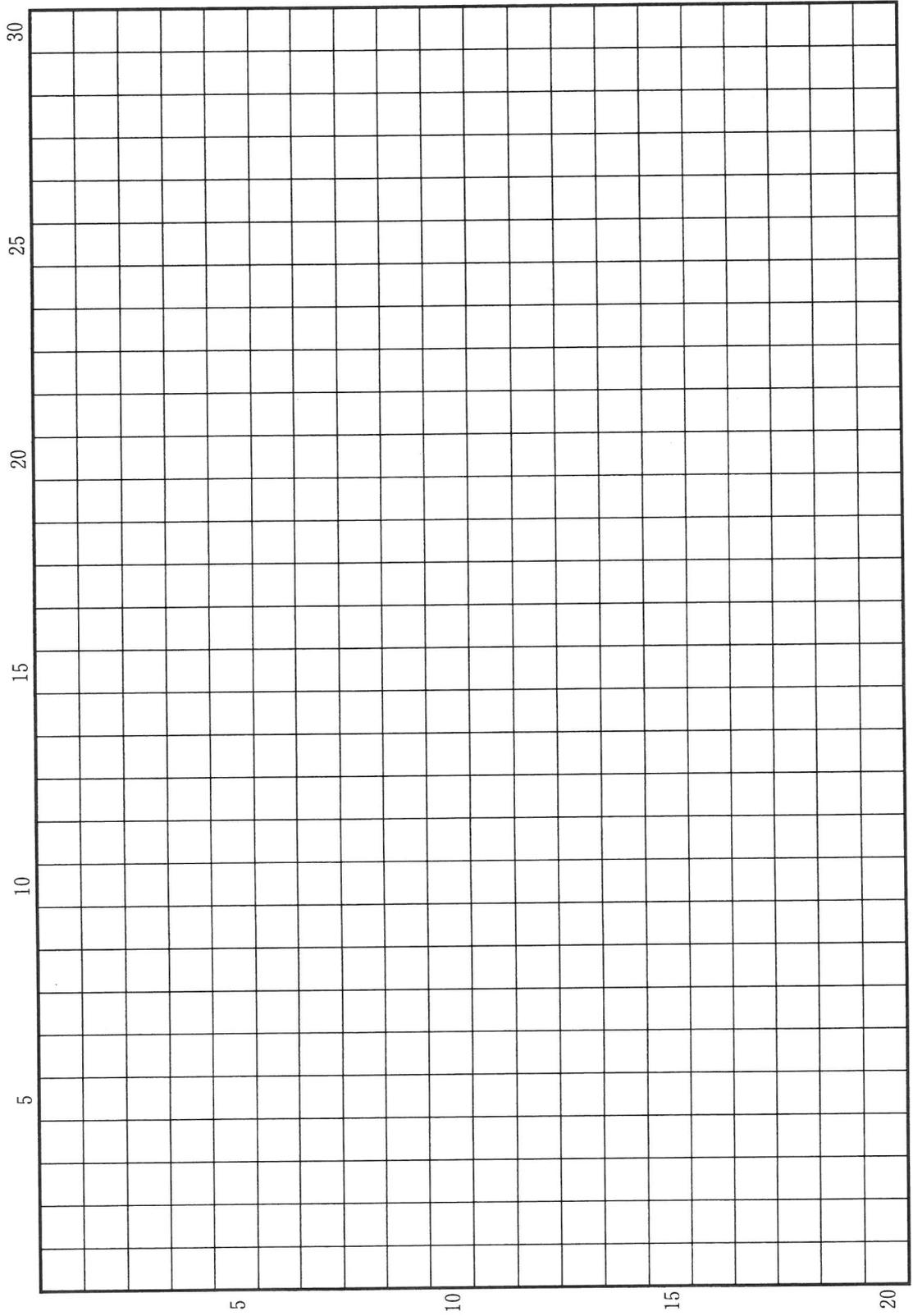
- (a) このウラマーの名前を記せ。
- (b) 資料中の下線部に関連して、ココヤシの繊維を用いて作られていた帆船の名称を挙げながら、その船を用いて行われた海上交易について、2行以内で記せ。
- (c) 当時のアラビア半島西部には、カイロを拠点とする王朝の影響力が及んでいた。その王朝の建国後の対外的な動きについて、王朝の名称を挙げながら、2行以内で記せ。

問(3) ユーラシア大国としてのロシアは、シベリアという広大な領域の支配により成立したといえる。シベリアの毛皮や木材、そして豊富な地下資源は、歴史的にロシアに大きな経済的利益をもたらしてきた。このことに関する以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えよ。

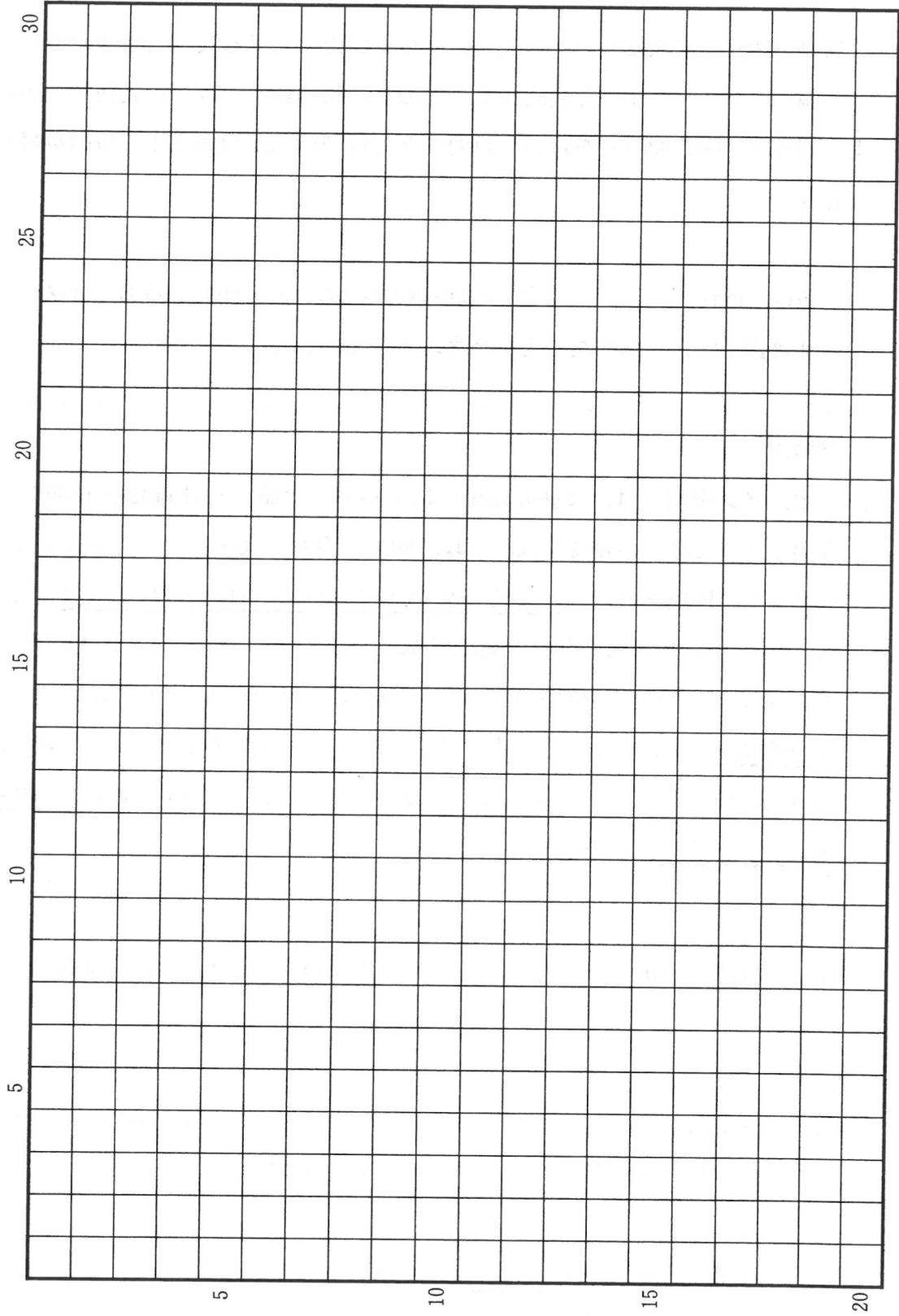
(a) 16世紀のロシアのシベリア進出について、2行以内で記せ。

(b) 1890年代のロシアのシベリア開発に関して、この時期に起こった事柄とその背景、さらにその影響について、対外関係も踏まえて、4行以内で記せ。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 3 問

世界史探究の授業において、3つの班が世界史における女性と男性のあり方について調べ、パネルを作って発表した。このことに関連する以下の設問(1)~(10)に答えよ。解答は、解答欄(ハ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(10)の番号を付して記せ。

1班は、近代イスラーム社会における女性のあり方に関心を持ち、オスマン帝国の女性雑誌について調べたことをパネル1にまとめた。

パネル1

オスマン帝国では、女性の編集者によるトルコ語の女性雑誌が1880年代に登場した。これらの雑誌には、家政、衛生、教育、文学、ファッションなど多様な記事が掲載された。その後、憲法の下で出版の自由が保障されたことを背景として、^①1910年代に女性雑誌が多数刊行された。なかでも『女性の世界』誌は、ムスリム女性の地位の向上、教育の拡大、社会進出などを訴え、また、女性の参政権について論じた。オスマン帝国における女性のこうした活動は、世界各地に波及した第1波 の一環であり、その第2波は、1960年代後半から70年代に高揚した。^②

問(1) 下線部①の状況をもたらした、オスマン帝国における政治的事件の名称を記せ。

問(2) 下線部②に関連して、第一次世界大戦後のドイツでは、男女平等の普通選挙権を明記した憲法が成立した。この憲法の名称を記せ。

問(3) 下線部③の時期の の運動に影響を与えた、アメリカ合衆国における黒人差別撤廃運動の名称を記せ。

2班は、中国における女性と男性のありように関心を持ち、清代についての資料を探して、パネル2にまとめた。

パネル2

I



II



- ・ Iは清の皇帝が狩猟をしている様子を描いた絵画である。左側に描かれている女性は、動きやすいズボンをはき、馬に乗っている。これは、清を建国した **B** の社会に見られる習俗だった。
- ・ IIに見える女性は、纏足と呼ばれる、人為的に足を小さくする風習をしている。これは、清の支配以前から **C** の上流層で行われた習慣で、科挙に合格して官僚を出した地主など富裕層の家庭に多く見られた。^④
- ・ 近代になると、IIに見られる風習や、**C** の男性に対して強制された 辮髪は廃止されていった。^⑤しかし、身体に関わる規範からの解放を強制することもまた、苦痛を強いることになった。

問(4) パネル2中の空欄 ・ に入る語句の組合せとして正しいものを、次のア～エのうちから1つ選び、その記号を記せ。

- ア B—漢人 C—満洲人
- イ B—漢人 C—両班
- ウ B—満洲人 C—漢人
- エ B—満洲人 C—両班

問(5) 下線部㉑に関連して、試験で官僚を選抜する科挙制度は清と同時期のヨーロッパで注目を集め、啓蒙専制君主と交遊して影響を与えた思想家も、これを高く評価した。この思想家の名前を記せ。

問(6) 下線部㉒に関連して、辮髪姿の男性は中国人の表象とされ、19世紀から20世紀前半にかけて、欧米の風刺画でさかんに描かれた。その背景には、この時期に中国人労働者が世界各地に数多く流入したということがある。その事情について調べるための資料として**適当でないもの**を、次のア～エのうちから1つ選び、その記号を記せ。

- ア 世界恐慌の前後における主要国の工業生産指数の推移を示したグラフ
- イ イギリスとフランスにおける奴隷制の廃止に至る過程を記した年表
- ウ 第2次アヘン戦争(アロー戦争)後に結ばれた北京条約の内容
- エ 蒸気船・蒸気鉄道による輸送力の増加を示した統計

3班は、女性の社会的な地位や役割の変遷について関心を持ち、調べたことをパネル3にまとめた。

パネル3

次の資料は、前7世紀後半にレスボス島に生まれ、古代ギリシアの叙情詩人として名高い女性が歌った詩である。

やさしい母さま、
ほんにわたしゃ、もう機^{はた}を織る
気も出ませぬえ、
すらりとした殿御^{とのご}をいととしと
おもうこころの切なさに。

(呉茂一訳，表記一部改変)

- ・この詩は、未婚の女性が若い男性に恋い焦がれる様子を描いたものであるが、本来であれば彼女は母とともに家事労働を期待される存在であったことも示している。
- ・前近代における一般の女性たちは、このように家庭内での役割のみを求められ、政治に参加する権利を認められないことが多かった。世界史には権力の座^㉑についた女性も現れたが、その多くは、家系や結婚などによる地位の獲得や向上が前提となっていた。
- ・近代に入ると、男性優位の役割分担^㉒がむしろ強まったが、20世紀になると、社会に出て働く女性も多くなり^㉓、それが女性の社会的・政治的地位向上に結びついていった。

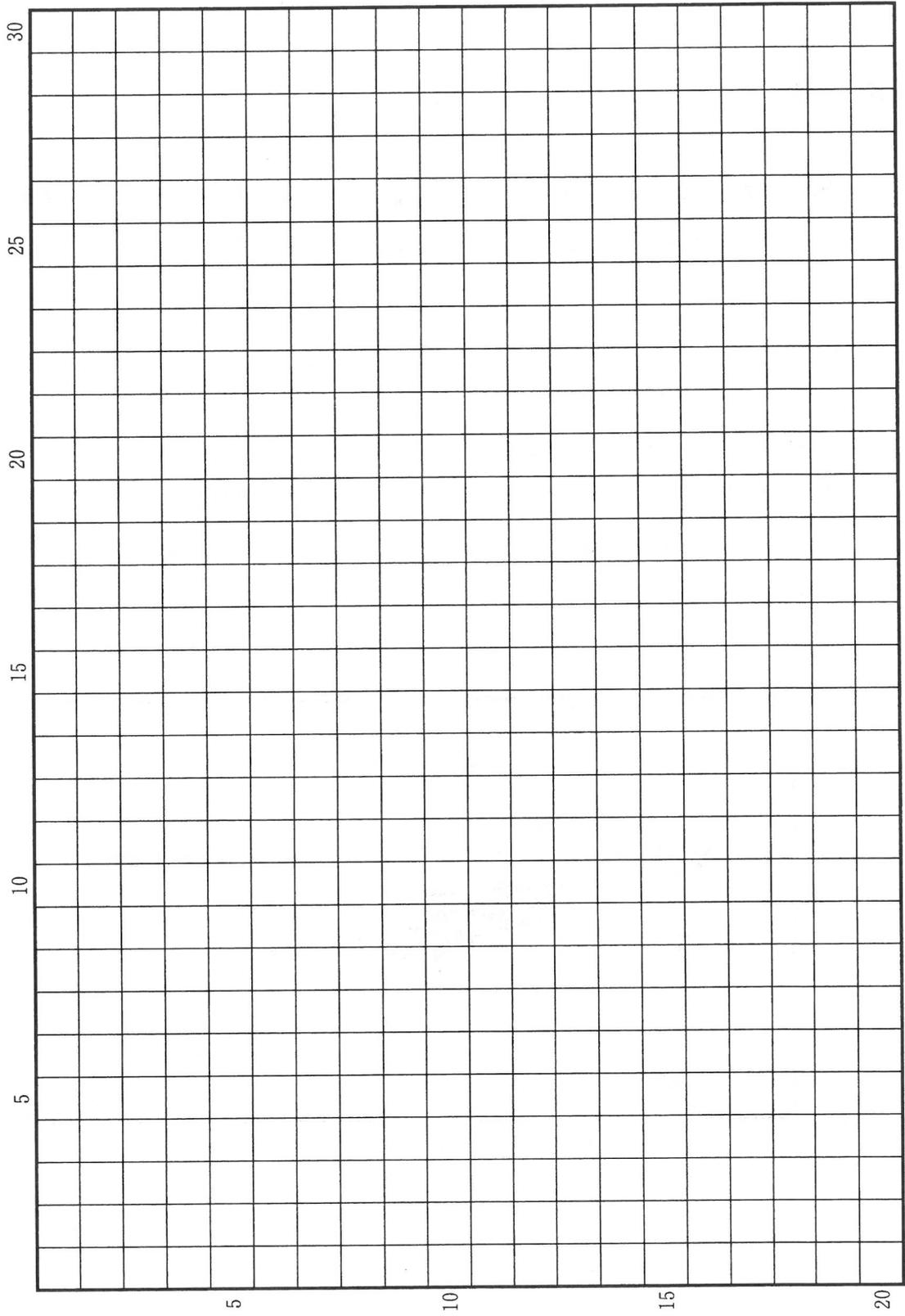
問(7) パネル3中の詩の作者の名前を記せ。

問(8) 下線部㉑に関連して、中国史上で唯一、女性で皇帝となった人物の名前を記せ。

問(9) 下線部㉔の傾向は、近代欧米社会において、法で規定されることによって強化・固定化された側面があった。フランスで定められた、近代市民社会の原則をまとめた民法典の名称を記せ。

問(10) 下線部㉕のきっかけの一つは、戦争が、軍隊だけでなく国力の全てを動員する形態をとるようになったことにある。このような戦争の形態の名称を記せ。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



地 理 探 究

第 1 問

海洋に関する以下の設問A～Cに答えよ。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問A

図1-1は、世界の主なサンゴ礁の分布を示す。サンゴ礁をともなうハワイ島は現在ホットスポット上にある活火山の島で、その北西にはプレートとともに移動した形成年代の古い火山島群であるハワイ諸島が連なる。さらに図1-1のXとYの間にはハワイ諸島より古い形成年代の火山島が海面下に没して天皇海山列を形成している。サンゴ礁と海山に関する以下の問いに答えよ。

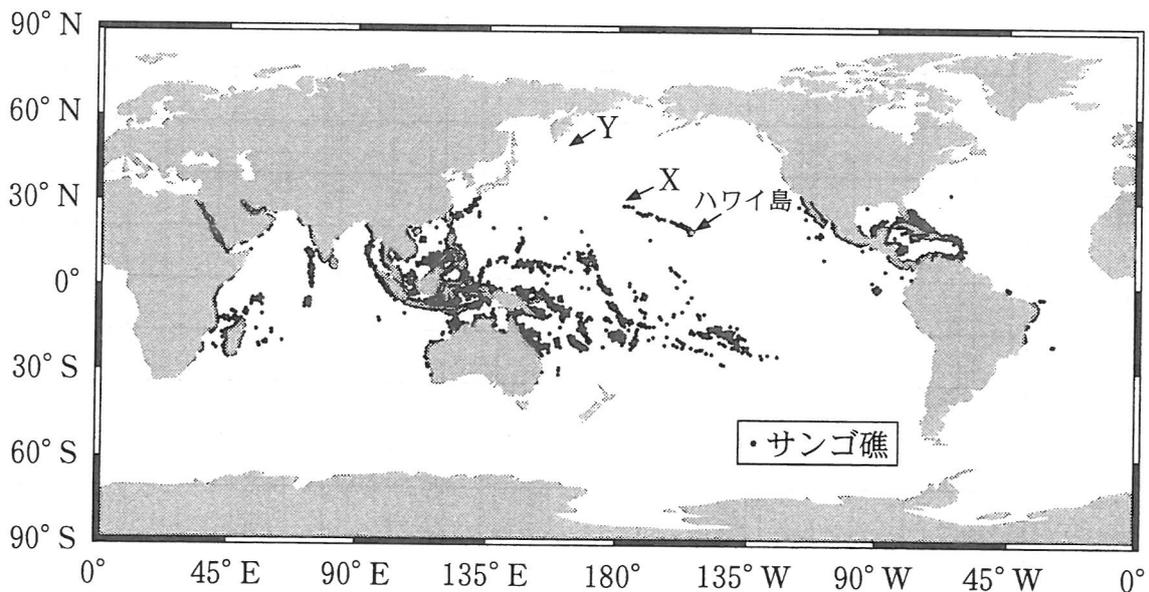


図1-1

アメリカ海洋大気庁(NOAA)による。

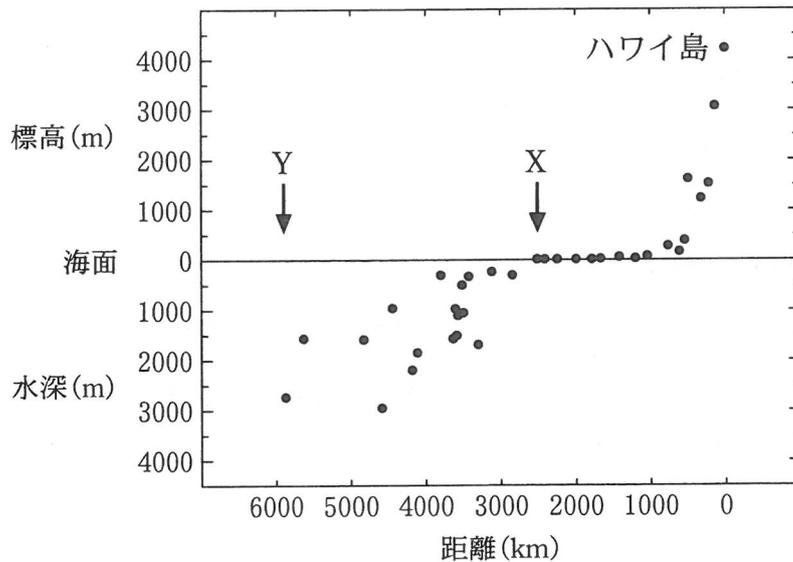


図 1—2

- (1) 図 1—2 は、ハワイ諸島と天皇海山列における島の標高の最大値もしくは海山の頂部の水深を示したものである。横軸はハワイ島からの距離をハワイ諸島と天皇海山列の連続する方向に沿って示している。ハワイ島から約 1000 km の範囲で島の標高が大きく低下している理由を 1 行で述べよ。
- (2) 図 1—2 の 1000 km から 2500 km (X 点) の範囲の標高は海面付近でほぼ一定であり、その北西ではサンゴ礁は島とともに海面下に没して分布しない。1500 km にわたって標高が海面付近でほぼ一定となる理由と X 点より北西にサンゴ礁が存在しない理由をあわせて 2 行以内で述べよ。
- (3) 日本で産出する石灰石の多くは、かつて島にともなわれたサンゴ礁がプレートの沈み込みによって取り込まれたものである。この石灰石は砂泥粒子の混入が少なく、炭酸カルシウム濃度の高い高純度の資源とされている。図 1—1 を参考に、大陸の縁と海洋島のサンゴ礁の形成環境を比較し、日本の石灰石の純度が高い理由を 2 行以内で述べよ。

設問 B

海洋生態系に取り込まれる炭素をブルーカーボンと呼び、ブルーカーボンを隔離・貯留する生態系をブルーカーボン生態系と呼ぶ。その代表例として、世界的には海草藻場、塩性湿地(塩分と水分に富む湿地)、マングローブ林が知られる。地球温暖化を軽減するためには、二酸化炭素の排出量を削減すること、吸収量を増やすことに加え、隔離・貯留された炭素が二酸化炭素として再び大気中へ排出されることを防ぐ必要がある。二酸化炭素の吸収源の1つであり、かつ炭素を堆積物中に長期貯留することができるブルーカーボン生態系は、地球温暖化の軽減に貢献すると期待されている。

- (1) 上記3つのブルーカーボン生態系の合計の分布面積は海洋面積の0.5%以下に過ぎないが、その年間炭素貯留量は海洋全体の堆積物中の年間炭素貯留量の50%以上を占める。小さい面積ながら炭素の年間貯留量が多い理由を2行以内で説明せよ。
- (2) ブルーカーボン生態系は消失しやすい生態系でもある。日本では、世界的にブルーカーボン生態系が注目される前から分布面積の減少が問題になってきた。表1-1は、日本の瀬戸内海における、海草藻場の1つであるアマモ場の面積の変化を示している。1960~1970年代にアマモ場の面積が大きく減少した理由を2行以内で答えよ。
- (3) 日本の現在の二酸化炭素の年間排出量を10億トンとし、その0.1%を国内のブルーカーボン生態系により吸収できているとする。2030年に二酸化炭素の年間排出量を現在の70%にし、そのうち1%をブルーカーボン生態系で吸収するという目標を立てた場合、2030年にはブルーカーボン生態系の面積を現在の何倍にする必要があるか答えよ。ただし、単位面積あたりの二酸化炭素の吸収量はブルーカーボン生態系による差はないものとする。

表 1—1

年	1960	1966	1971	1978	1989～90
アマモ場の面積 (ha)	22,635	10,623	5,574	7,011	6,381

国土交通省中国地方整備局による。

設問C

近年、海洋プラスチックごみによる環境汚染が、生態系、生活環境、漁業などに悪影響を与えることが懸念されている。特に、直径が5 mm以下の微小なプラスチック粒子であるマイクロプラスチックが、海洋の広域に拡散している。図1—3は、2016年の2月(図のa)と8月(図のb)について、太平洋におけるマイクロプラスチックの濃度の分布を示した地図である。

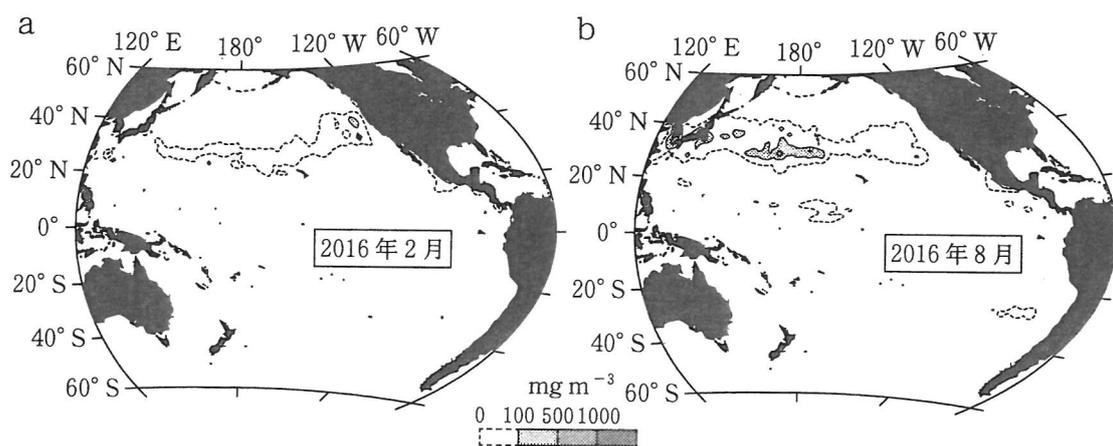


図1—3

Isobe ら(2019)による。

- (1) 図1—3によると、マイクロプラスチックが多い範囲が北緯20~40度付近で横に長く広がっている。この範囲について2月と8月の状況を比較すると、2月は米国に近い東太平洋でプラスチックがやや多く、8月は日本付近や西太平洋でプラスチックがかなり多い。このような季節差は毎年見られると考えられる。季節差が生じる理由を、プラスチックの供給と移動の過程を考慮して3行以内で述べよ。

(2) 表1—2は、海洋のマイクロプラスチックの給源のうち小さな粒子を直接的に供給するものを、供給量の比率とともに示している。比率が最も高いものは合成繊維(衣類など)である。この理由を人の日常生活と関連づけて1行で述べよ。

(3) 日常生活にともなう衣類からの小さな物質の供給は、合成繊維が普及する前にも生じていたが、以前は重大な海洋汚染の原因にはならなかった。この理由を1行で述べよ。

表1—2

給源	比率(%)
合成繊維(衣類など)	35
自動車タイヤ	28
シティダスト(人工芝, 靴底, 調理器具など)	24
道路標示の塗料	7
船舶の塗料	4
パーソナルケア製品(化粧品, 歯磨き粉など)	2

国際自然保護連合(IUCN)による。

第 2 問

アジアの2つの地域の経済と社会に関する以下の設問A～Bに答えよ。解答は、解答用紙の(ロ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問A

表2—1は、ASEAN 10 か国(2024年現在)の主要な貿易相手国・地域を取り上げ、2010年と2024年のASEANの輸出額・輸入額全体に占めるシェア(%)と、ASEANとそれぞれの国・地域との間の輸出額・輸入額の2010年と2024年の比を示したものである。

- (1) 2010年と2024年を比べると、輸出・輸入ともに中国の存在感が増している。特に輸入において、シェア、金額のいずれにおいても中国が際立って高い伸びを示している主な理由を2行以内で説明せよ。
- (2) 2010年と2024年を比べると、輸出・輸入のいずれにおいても日本は大幅にシェアを低下させている。特に輸入においては、ASEANの世界全体からの輸入額が倍増する中で、伸びがみられない。その理由として考えられることのうち、日本企業の行動に関わる理由を2行以内で説明せよ。
- (3) ASEANの貿易におけるオーストラリアのシェアは決して大きくないが、輸入額は2010～2024年にかけて世界全体からの輸入額の伸びを上回る伸びを示している。ASEAN諸国とオーストラリア双方が参加する、経済協力枠組みを1つ挙げ、その名称(略称でもよい)を述べるとともに、オーストラリアからの輸入拡大がASEAN諸国の産業に与える影響をあわせて2行以内で述べよ。

表 2—1

輸出	ASEAN	日本	中国	米国	EU	オーストラリア	世界
2010(%)	25.2	9.8	10.8	9.6	9.5	3.6	100.0
2024(%)	22.5	6.2	14.7	16.0	8.5	2.7	100.0
2024/2010 (輸出額の比)	1.6	1.2	2.5	3.1	1.6	1.4	1.8

輸入	ASEAN	日本	中国	米国	EU	オーストラリア	世界
2010(%)	24.1	12.3	13.3	8.8	8.3	2.0	100.0
2024(%)	19.9	6.0	25.3	7.6	6.7	2.4	100.0
2024/2010 (輸入額の比)	1.6	1.0	3.7	1.7	1.6	2.3	2.0

ASEAN, EU は 2024 年現在の加盟国。中国は中国本土のみ。

ASEAN から ASEAN への輸出, ASEAN から ASEAN への輸入は, ASEAN 構成国間相互の輸出・輸入を指す。

国際通貨基金 (IMF) 統計による。

設問B

図2—1は、中国本土の地域区分および同国内に4つある直轄市を示したものである。直轄市は、政府によって指定され、省から独立した大都市である。以下の問いに答えよ。

- (1) 直轄市②と④の都市名を②—〇〇のように答えよ。
- (2) 表2—2は2023年の人口あたりの消費支出とそのうちの住居支出を示したものである。この表より直轄市①や③でどのような都市問題が生じていることが読み取れるか。原因とあわせて2行以内で述べよ。
- (3) 政府が④を直轄市に指定した目的とその実現に向けて実施した施策の例を1つ、あわせて1行で述べよ。
- (4) 表2—3は地域別に米および小麦の生産量(2000年と2023年)と人口変化率(2000~2020年)を示したものである。2000年以降に東北地域において米の生産量が増加した理由を、中国本土全体の動向を踏まえて、国土利用の観点と技術的観点のそれぞれからあわせて3行以内で述べよ。

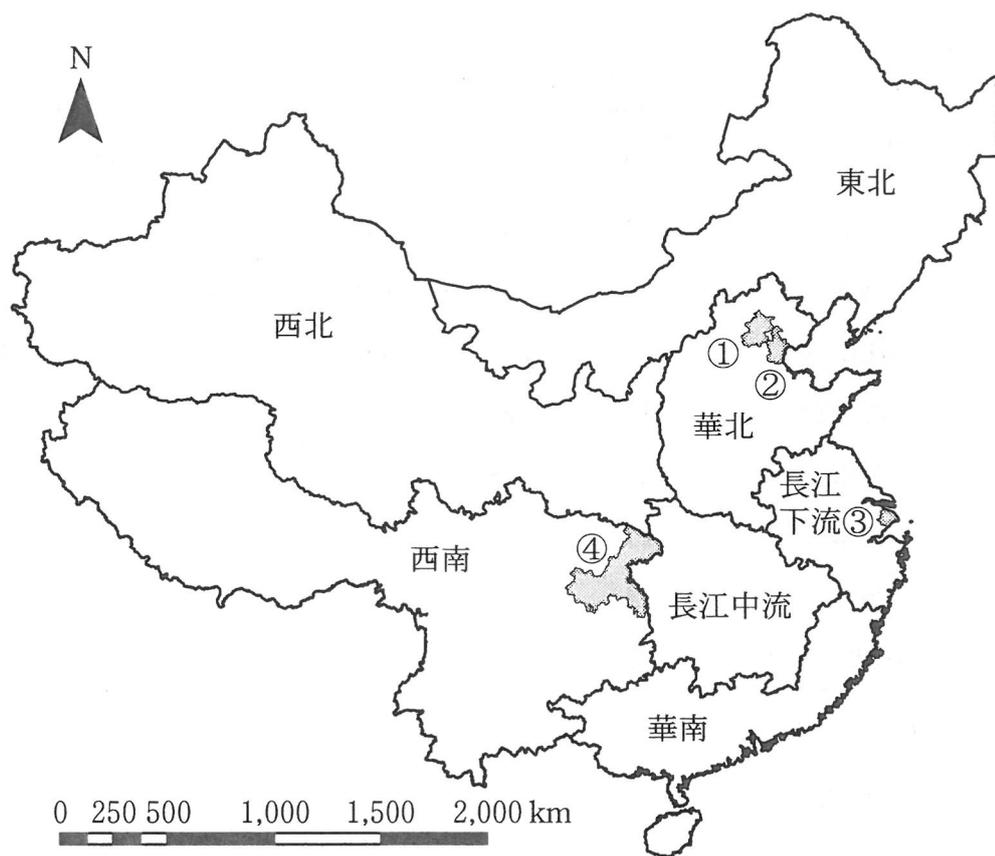


図 2—1

表 2—2

	人口あたりの 消費支出(A)	そのうちの住 居支出(B)	比率 (B)/(A)
直轄市①	50,897	20,261	39.8 %
直轄市②	37,586	8,411	22.4 %
直轄市③	54,919	19,100	34.8 %
直轄市④	31,531	5,926	18.8 %
中国本土(都市部)	32,994	7,822	23.7 %

単位：元

中国国家统计局「中国統計年鑑」による。

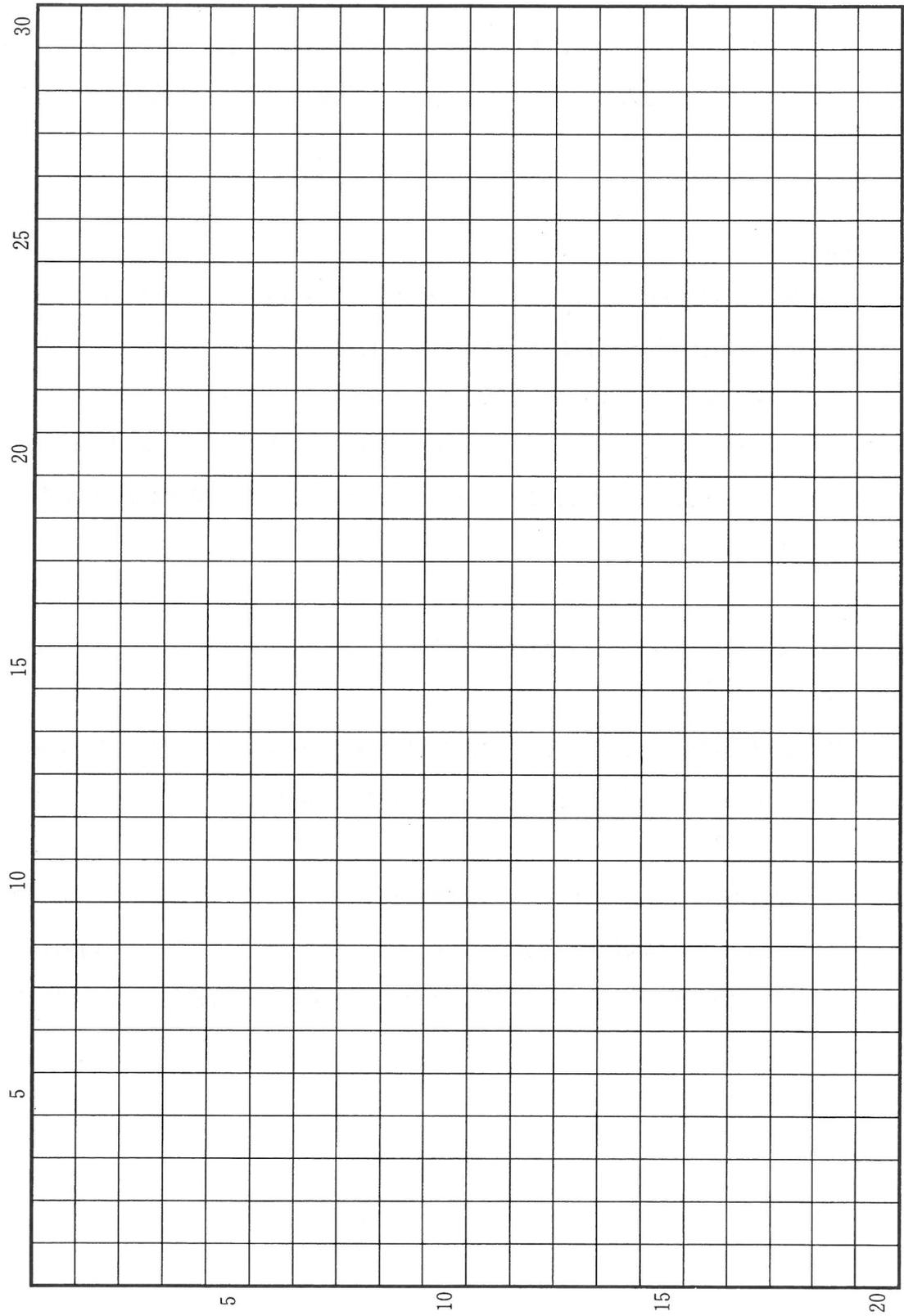
表 2—3

地域名	2000 年		2023 年		人口変化率 (2000~2020 年)
	米	小麦	米	小麦	
東北	1,866	330	3,617	143	- 4.4 %
華北	523	5,646	668	8,044	14.0 %
長江下流	4,150	1,583	4,185	3,194	21.0 %
長江中流	5,382	265	6,616	422	3.8 %
華南	3,433	18	2,650	1	33.4 %
西南	3,213	920	2,795	374	6.2 %
西北	224	1,203	129	1,482	16.0 %
中国本土計	18,791	9,964	20,660	13,659	13.5 %

単位：万トン

中国国家统计局「中国統計年鑑」による。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 3 問

日本における林業と水害に関する以下の設問 A～B に答えよ。解答は、解答用紙の(ハ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問 A

国内で消費される木材のうち国産木材が占める割合を、木材自給率という。図 3—1 は、日本の木材自給率の変遷を、日本国内における用途別の国産木材供給量とともに示したものである。1955 年頃まで木材自給率は 100 % に近かったが、その後は急激に低下して 2002 年には統計が取られて以来最低の 18.8 % となった。現在は 40 % 程度まで上昇してはいるものの、国際的には依然として低い水準にある。

- (1) 図 3—1 の凡例における(ア)に当てはまる用途を答えよ。
- (2) 木材自給率が大きく低下した主な理由を、輸入木材と国産木材の競争力の差異を生み出す要因に注目して、2 行以内で説明せよ。
- (3) 木材自給率の変動に対しては燃料材の影響も大きく、近年における燃料材の増加が木材自給率の回復要因になっている。ただし、1960 年代以前と近年とでは、燃料材の主な使用方法が異なっている。その違いを 2 行以内で説明せよ。

(4) 日本では、森林の有する公益的な機能の維持・増進に向けて、2024年度より1人あたり年間1,000円が森林環境税として徴収されるようになった。その税収は、国内各地の森林整備に加えて、その担い手の育成、木材利用の促進や普及啓発にも活用される。こうした多方面への財政的支援は、国産木材の需給にどのような変化をもたらすことが期待されているか。以下の語句をすべて用いて2行以内で述べよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

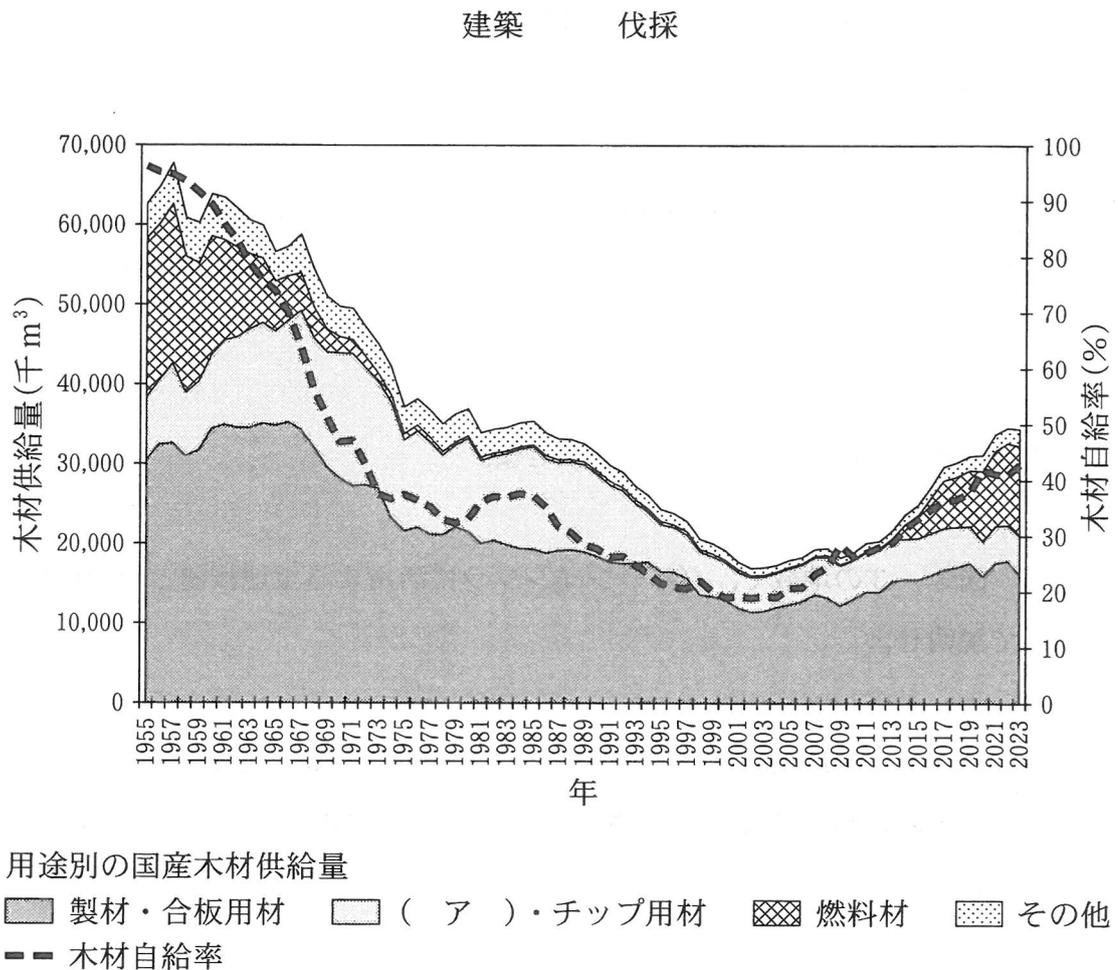


図3-1

林野庁「木材需給表」による。

設問 B

日本においては、しばしば水害が発生してきた。図 3—2 をみると、戦後最大級の被害をもたらした伊勢湾台風(1959 年)以降、水害による犠牲者数は減少傾向にあるものの、経済的損失は減少していない。近年、河川流域においては、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水害対策を行う「流域治水」の取り組みが加速している。流域治水においては、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を、ハード・ソフト一体で多層的に進めることが掲げられている。①に関しては、地形や土地被覆の特徴や機能を活用するグリーンインフラの取り組みが注目されている。また、②と③に関しては、さまざまな地理空間情報を統合する GIS(地理情報システム)を利用した防災対策の検討が進んでいる。こうした流域治水の取り組みは、古くから水辺で人々が自然と調和して暮らしていた知恵に通じるものであり、それを現代的に再構築しようとする試みとも捉えられる。

- (1) 下線部の理由を 2 行以内で説明せよ。
- (2) 図 3—3 の地域で、グリーンインフラに活用する土地被覆とその役割を 1 行で説明せよ。
- (3) 図 3—4 の地域で、グリーンインフラに活用する土地被覆とその役割を説明し、実際に導入する際に考慮すべき社会的な課題とあわせて 2 行以内で述べよ。
- (4) 冒頭文の②と③に関して、GIS を利用して、浸水想定区域と現在の人口分布をレイヤとして重ねるとする。その際、人口構成に関するどのような情報を用いると防災対策の検討に有効か、その理由も含めて 3 行以内で説明せよ。

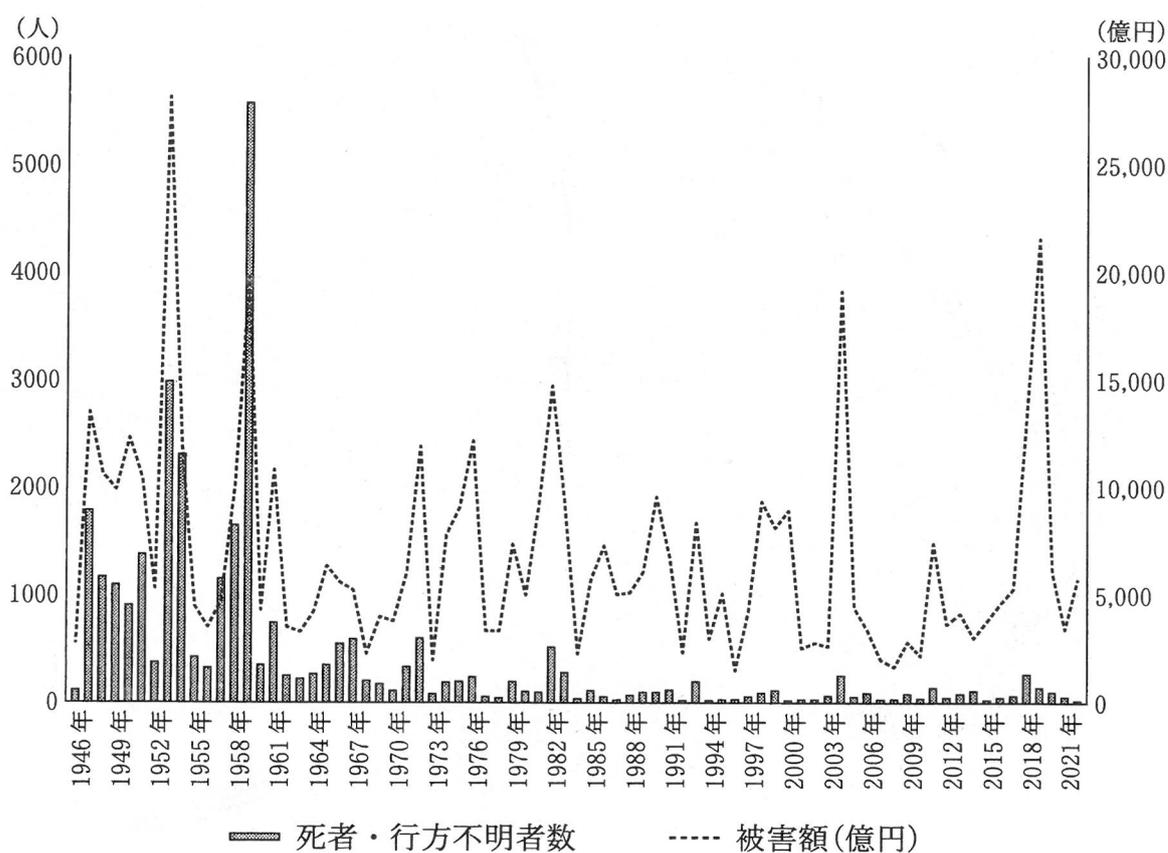


図 3—2

戦後の水害による死者・行方不明者数及び被害額(2015年換算)

国土交通省「水害統計調査」による。

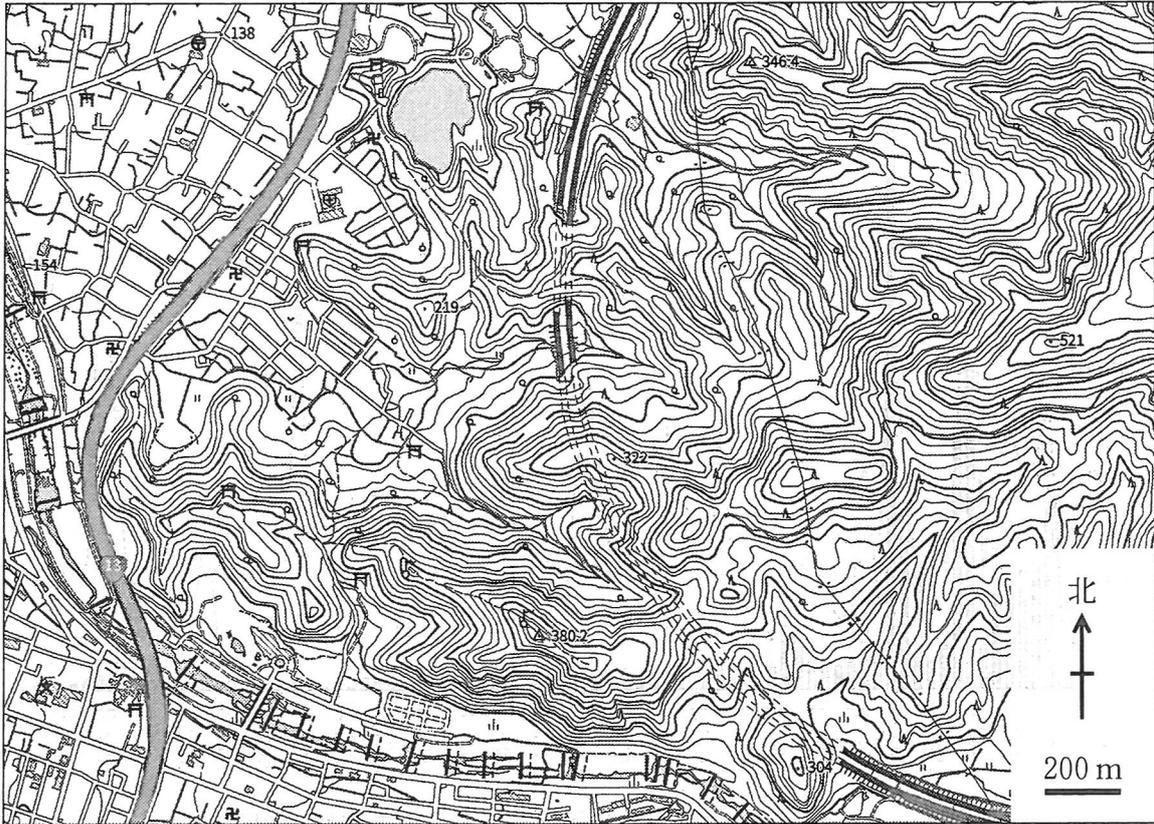


図 3—3

地理院地図を加工して作成。



図 3—4

地理院地図を加工して作成。

